

宇土市庁舎建設基本設計（案）概要

住民説明会資料

平成31年4月13日（土）
13時30分～

- 01 __ 基本方針
- 02 __ 配置計画
- 03 __ 平面計画
- 04 __ 防災計画・環境計画

庁舎建設の検討経緯

時 期	内 容
平成27年9月～平成28年1月	宇土市庁舎建設検討委員会（外部委員）による庁舎建設基本構想（案）の審議
平成28年4月	庁舎建設に関するアンケート調査の実施
平成28年11月,12月	宇土市庁舎建設市民ワークショップの開催
平成29年3月	宇土市庁舎建設基本構想の策定
平成30年3月	宇土市新庁舎建設基本計画の策定
平成30年9月	企画提案方式による基本・実施設計者の選定
平成30年10月～	基本設計

基本方針

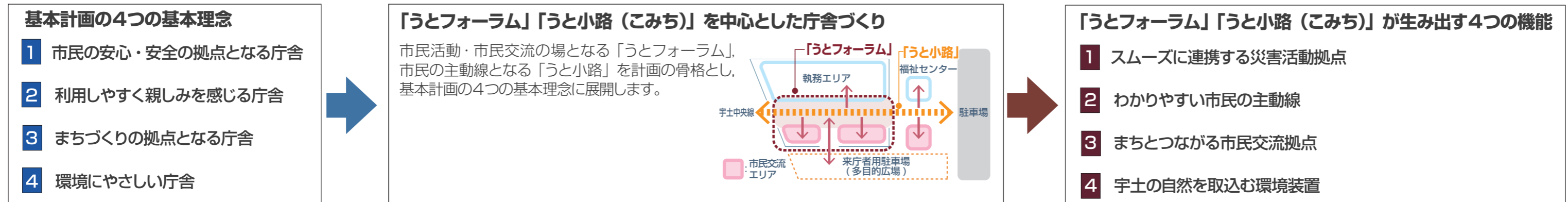
■ 計画概要

<p>敷地概要</p> <p>所在地： 熊本県宇土市浦田町 51</p> <p>敷地面積： 約 6,390㎡ (福祉センター, 別館敷地除く)</p> <p>用途地域： 近隣商業地域</p> <p>防火地域： 指定なし</p> <p>建ぺい率： 80%</p> <p>容積率： 300%</p> <p>日影規制： なし</p>	<p>建築概要</p> <p>主要用途： 庁舎</p> <p>建築面積： 約 2,470㎡</p> <p>延床面積： 約 7,400㎡</p> <p>階数： 地上 4 階, 塔屋 1 階, 地下なし</p> <p>基礎： 杭基礎</p> <p>構造： 鉄筋コンクリート造・免震構造</p> <p>駐車場： 来庁者用 約 140 台 公用車用, 職員用</p>
--	--

■ 事業スケジュール

事業フェーズ	2016年度 (H28)				2017年度 (H29)				2018年度 (H30)				2019年度 (H31・R1)				2020年度 (R2)				2021年度 (R3)				2022年度 (R4)				2023年度 (R5)			
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月
1.基本構想	■																															
2.基本計画					■																											
3.調査									■																							
4.基本・実施設計									■				■																			
5.新庁舎建設工事													■				■															
6.移転、その他工事																					■											
7.供用開始																									■							
8.解体工事													■				■															
9.外構工事																									■							

■ 計画の基本的な考え方



■ 基本方針

基本計画の指針である「宇土市新庁舎建設基本計画」で定めた4つの基本理念に基づき, 基本設計を進めています。

- 1 市民の安心・安全の拠点となる庁舎**
～3つの力「安全力」「機動力」「業務継続力」で防災の砦となる庁舎～

 - ・免震構造を採用し, 大地震の被災直後でも防災拠点としての機能を確保します。【安全力】
 - ・災害時は災害対策活動エリアと執務エリアを明確に区分し, 市役所機能はそのままに災害対策活動拠点に機能転換します。【機動力】
 - ・非常用発電機の設置や給水, 排水機能の確保により, 緊急時でも業務継続可能な計画とします。【業務継続力】

- 2 利用しやすく親しみを感じる庁舎**
～わかりやすく柔軟性の高い「ワンフロア窓口」庁舎～

 - ・来庁者の主動線となる「うと小路」を中心に窓口や待合, 市民交流スペースを配置したわかりやすい施設構成とします。
 - ・市民窓口を1階に集約した「ワンフロアストップ窓口」とし, 誰もが使いやすいユニバーサルデザインにすることで, 市民の利便性を最優先した計画とします。
 - ・時間外の利用が可能な市民交流スペースを設け, 日常から市民が気軽に立ち寄れる庁舎とします。

- 3 まちづくりの拠点となる庁舎**
～ひととまちを活性化する「にぎわい」庁舎～

 - ・来庁者用駐車場は多目的広場と兼用し, 様々なイベントや催しを行える場として市民活動の活性化と賑わいを生み出します。
 - ・市民交流スペースは, 多目的広場と一体利用が可能な造りとし, 宇土中央線へ賑わいが表出することで, まち全体の活性化につなげます。
 - ・宇土中央線と多目的広場に沿って低層部を設け, 周辺のまちなみとの景観調和を図ります。

- 4 環境にやさしい庁舎**
～宇土の自然を活かし調和する「宇土型環境デザイン」庁舎～

 - ・太陽光などの自然エネルギーを活用し環境に配慮するとともに, 「うと小路」を利用した自然換気, バルコニーによる日射制御などにより, 消費エネルギーを抑制します。
 - ・様々な省エネルギー手法により, 快適性と経済性を両立する環境計画とします。

配置計画

1. コンパクトな4階建てとし、多目的広場を最大限確保

- ・新庁舎は敷地南西側に寄せたコンパクトな建物配置とします。
- ・新庁舎南側は来庁者用駐車場とし、多目的広場兼用とします。
- ・日常の利便性を高める来庁者駐車場として、イベント開催時の会場として、災害時の防災広場として、様々な利用が可能な広場を最大限確保します。

2. 「うと小路」を中心に周辺施設と安全につながる歩行者動線

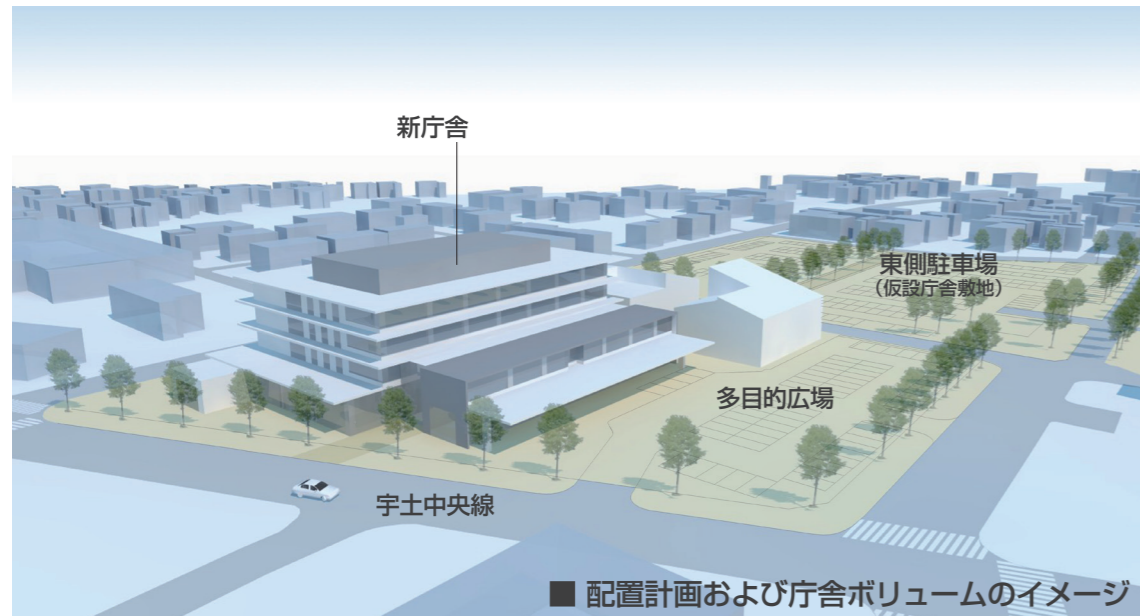
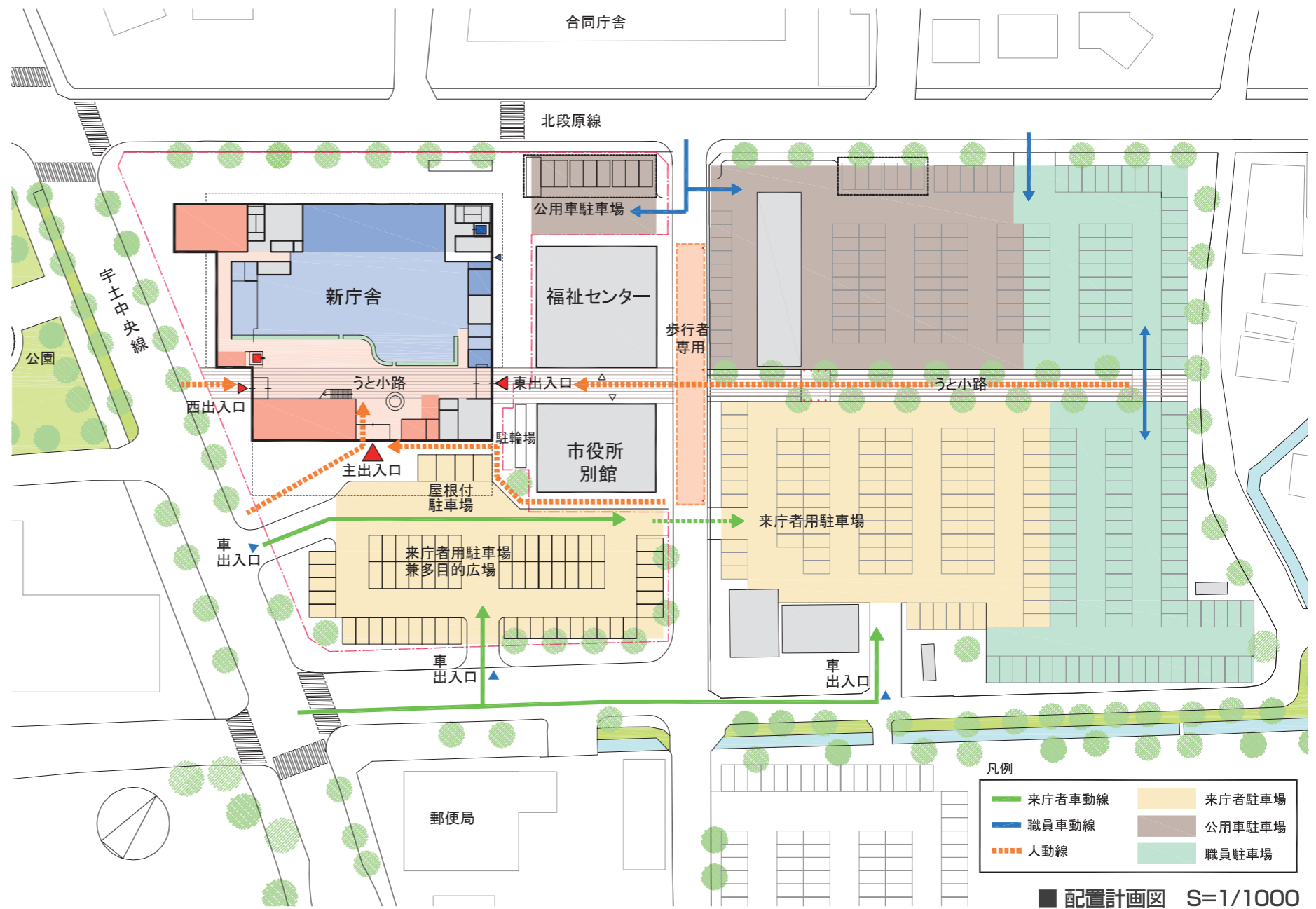
- ・宇土中央線から東側駐車場まで庁舎内外をつなぐ「うと小路」を整備します。
- ・隣接する福祉センターや別館との連携や相互利用が高まります。
- ・東側駐車場内に歩道を確保することで、歩行者の安全性を高めます。

3. 明快にゾーニングされた駐車場計画

- ・来庁者の利便性に配慮し、新庁舎の近くに来庁者用駐車場を配置します。
- ・車の出入口は敷地西側、南側の3か所とし、宇土中央線の車渋滞に配慮します。
- ・公用車、職員駐車場は東側駐車場の北段原線近くに配置し、来庁車の動線と分離します。

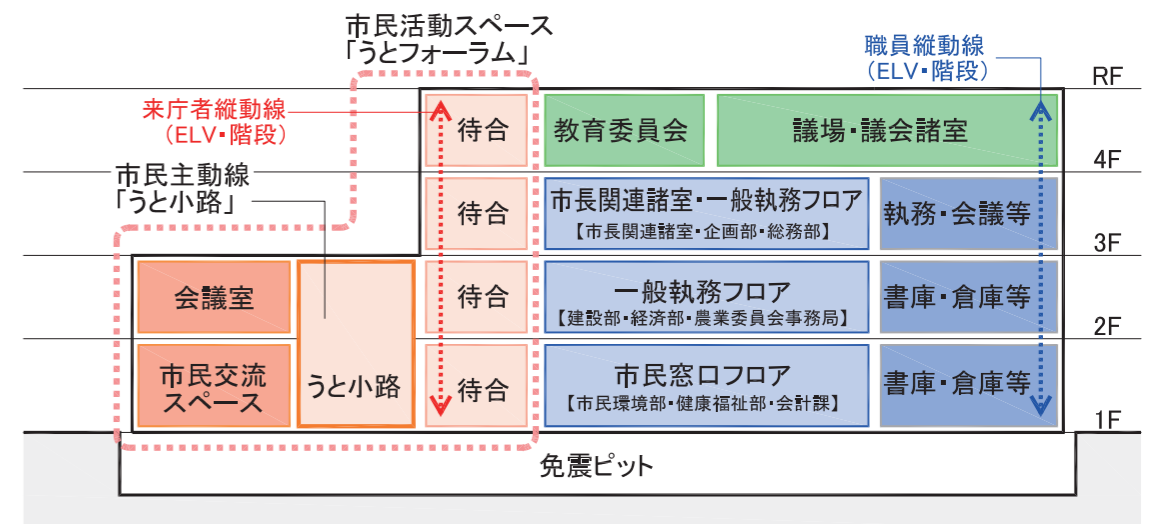
4. まちの景観と調和する建物ボリューム構成

- ・宇土中央線、多目的広場に沿って低層部を配置し、徐々に高層化させることで、低層のまちなみと調和した景観をつくります。



フロア構成

- ・地上4階建てとし、各階を市民活動スペースと執務スペースに明確に分けたわかりやすい構成とします。
- ・縦動線は来庁者用と職員用を明確に分けます。
- ・来庁者用の縦動線は「うとフォーラム」の視認性の高い位置に配置します。
- ・1階は、市民の利用頻度の高い窓口部署を集約するとともに、市民交流スペースを設けます。
- ・2階は一般執務および会議室を集約したフロアです。
- ・3階は市長関連諸室および一般執務室を配置します。
- ・4階は教育委員会と議会を配置します。
- ・新庁舎は免震構造とし、建物下部に免震装置のあるピットを設けます。



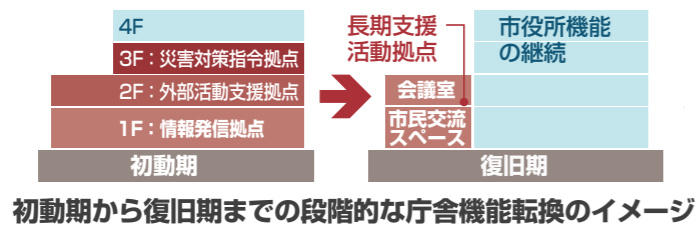
■ 防災計画

1. 敷地全体を活用し、支援受入体制と災害対策活動を展開

- ・多目的広場は、災害時には庁舎と迅速な連携が可能な災害対策活動拠点となります。
- ・東側駐車場は、支援受入スペースとしての十分なスペースを確保します。
- ・マンホールトイレや防災井戸を設置し、災害に備えます。

2. 明確なゾーニングにより、市役所機能はそのままに防災拠点に機能転換

- ・うと小路を中心に災害対策活動エリアと執務エリアを明確に区分することで、市役所機能を維持しつつ、スムーズな災害対策活動が可能となります。
- ・市長関連諸室に隣接して災害対策本部室を配置し、迅速な指揮系統を構築します。
- ・1Fの市民交流スペースや2Fの会議室エリアを執務室と明確に区分することで、市役所機能に影響なく長期にわたる復旧支援活動が可能なゾーニングです。



3. 災害時のインフラバックアップ

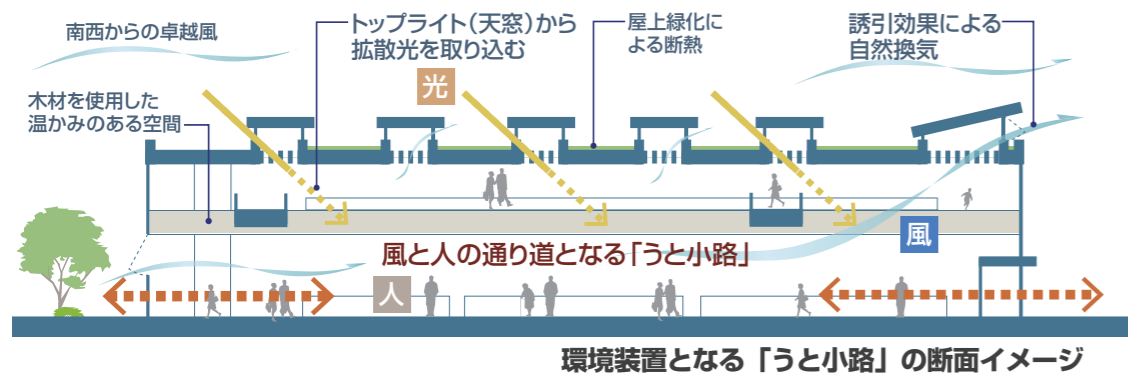
- ・災害時のインフラ（電気、上水、下水）途絶に備え、非常用発電機や受水槽、緊急汚水貯留槽を設置することにより、電力3日間、上水下水7日間分を確保する計画とします。
- ・自然換気や自然採光、太陽光パネル等の自然エネルギーを活用した計画とし、災害時のエネルギー消費を抑制します。



■ 環境計画

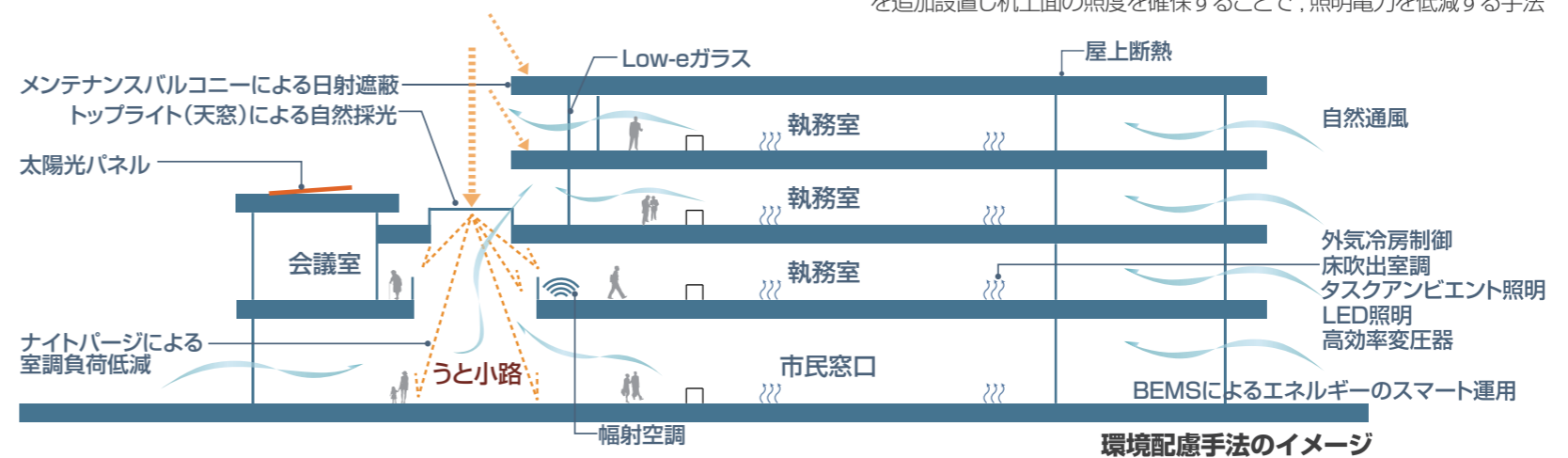
1. 「うと小路」を環境装置とし自然エネルギーを採り込む

- ・うと小路の吹抜け空間にトップライト（天窗）や換気装置を設け、自然採光や自然通風を積極的に建物内に取り込みます。
- ・夏はナイトパーズ（夜間の自然換気装置）により夜間の冷えた空気を取込み、翌朝の空調負荷を低減します。



2. 日射負荷を最小化する建築デザイン

- ・庇を兼ねたメンテナンスバルコニーを周囲に設け、強い日差しをカットします。
- ・西日に対しては、縦ルーバー等により室内への日射を抑制します。
- ・Low-E ガラス（高遮断熱複層ガラス）を採用し、熱負荷を低減します。



3. 経済性と快適性を両立する省エネルギー手法

- ・大空間の執務スペースを効率的に空調する床吹出空調やタスクアンビエント照明（*）等、様々な省エネルギー手法を採用し、ランニングコストの削減を行います。
- (*）ベース照明（アンビエント照明）は最低限の照度に設定し、手元照明（タスク照明）を追加設置し机上面の照度を確保することで、照明電力を低減する手法